

第 3 章 戦略目標

1 将来ビジョン「10年後のめざす姿」

本県が世界から選ばれ、観光産業が基幹産業となり
地域経済をけん引する原動力となっている状態
『訪れる人、働く人、地域の人』が幸せを感じる地域

～「投資を呼び込む」基幹産業への成長～

本県観光は、3度の新幹線開業とともにステップアップしてきましたが、次のステージとなるこれからの5年間は、立体観光をはじめ、これまで培ってきたノウハウや磨き上げてきた観光コンテンツを生かして国内外からの更なる誘客を推進していく必要があります。

観光産業を、国内外から投資する価値があるものと評価される本県の基幹産業として成長させていくことにより、幅広い分野において、生活の基盤となる魅力ある「生業」と観光で稼ぐ「人財」を生み出し、観光産業が「経済を回す」原動力となることをめざしていく期間となります。

観光を取り巻く環境は、今後も変化していくことが見込まれますが、幅広い分野での連携・協働に向け、関係者が基本的な方向性を共有できるよう、概ね10年後のめざす姿としての将来ビジョンを掲げます。

～幸せを共に感じることができる地域の形成～

この将来ビジョンは、「観光は平和の上に成り立つ」という趣旨から平和産業となぞらえられる観光産業の発展が、本県観光に関わる人々の幸せにもつながることへの期待を表しています。

本県を「訪れる人」が心弾む体験をし、喜びや心満ち足りる充実した時間を過ごしたことなどが本県観光の高い評価へとつながり、それが更に、本県で「働く人」のやりがいや「地域の人」の郷土への誇りと愛着の醸成、地域の魅力の更なる向上へとつながることで、より多くの人々が本県を訪れるようになるという好循環が生み出されることをイメージしています。

本県ならではの素晴らしい魅力を生かした「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを推進していくことにより、「訪れる人、働く人、地域の人」がそれぞれに本県の価値を高く評価し、幸せを共に感じることができるような地域の形成をめざしていきます。

～世界から「選ばれる青森」～

将来ビジョンの実現に向けては、旅の目的地として世界から「選ばれる青森」へと成長していく必要があります。

本県には、日本の輸出をリードする青森りんごをはじめ多種多様で高品質な農林水産品、本州の北の結節点に位置する人・モノの交流拠点としての地理的優位性、世界自然遺産白神山地、十和田八甲田地域等の世界に誇れる自然・環境、三内丸山遺跡等の本州の北の地の文明の扉を開いた縄文文化、ねぶた祭をはじめとした日本を代表する夏祭り等の伝統・文化、県外から粘り強い等と評価される人財と受け継がれてきた暮らしぶりや風土など、多くの強みがあります。

観光で本県の強みをつなぎ、幅広い分野とのつながり・関わりを深めていくことで、地域ならではの価値を創出し、観光産業を地域経済の柱となる基幹産業として成長させていくことにより、国内外に誇れる魅力を備えた「世界の中の青森」となることをめざします。

2 基本的な方向性「滞在の量と質」

観光振興による交流人口の拡大と外貨の獲得に向けては、世界自然遺産白神山地や北海道・北東北の縄文遺跡群、十和田八甲田地域等の本県を代表する地域資源のブランド力や食の魅力、四季折々の強みを生かすとともに、各地域の多彩で豊富な地域資源の魅力を活用し、観光需要の更なる獲得に取り組んでいく必要があります。

また、観光客数の増加など「県内総時間」を拡大していく量的な視点とともに、滞在中の活動の高度化や深化、観光と物産を連動させた相乗効果などによる消費効果の拡大の視点も持ち、県内で過ごす時間の質、「滞在の質」を高めていく取組が重要となります。

上質な旅を提供し、観光客の満足度を向上させ、本県に愛着を持つ青森ファンを増やしていくこと等により、長期滞在やリピートにつなげるなど、「滞在の質」を高めていくことは、「滞在の量」を増やしていくことにもつながります。

本戦略では、「量」の増加と「質」の向上の双方について、主に次の視点から取り組んでいきます。



～旅行行動を捉えた旅の好循環の創出～

観光客の満足度を向上させ、リピーターを獲得していくとともに、知人等への本県観光の推奨やSNS等による本県の魅力の発信など、来訪時の体験を更なる誘客につなげていくためには、観光客の旅行行動を捉えた取組が重要となります。

「タビナカ」の自慢したくなるような体験が、「タビアト」での知人等との本県の魅力の共有や情報の拡散、興味・関心の喚起へとつながり、「また行きたい」、「行ってみたい」という新たな「タビマエ」への好循環を生み出すような取組を推進していきます。

青森ファンに なってもらいたい

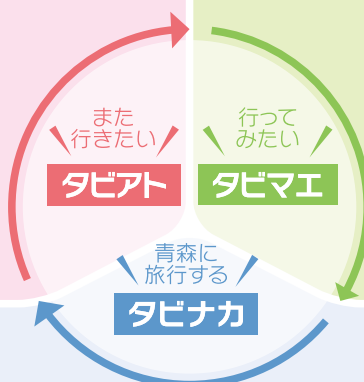
今回の旅行を「また行きたい」、「知人等に勧めたい」といった、次の旅行へのきっかけにつなげていくことが重要となります。

クチコミ等の旅の評価をしっかり把握し、より良い方向に改善していくなど、新たなタビマエへの好循環を生み出すような取組を推進していきます。

知ってもらいたい 選んでもらいたい

本県の魅力を知ってもらい、「行ってみたい」と興味・関心を持ってもらう必要があります。

観光で稼ぐ人財が連携・協働した観光地域づくりを進めながら、本県の多彩な魅力を幅広く紹介し、国内外の観光客から旅の目的地として選ばれるための取組を推進していきます。



充実した時間を過ごしてもらいたい

本県を訪れた観光客の「見る」、「体験する」、「買う」等の本県観光を楽しむ様々な場面の満足度を高めていく必要があります。快適、安全・安心な環境づくり、宿泊施設等での上質なサービスや地域ならではのモノ・コトの提供などの取組を推進していきます。

～もう一つの立体観光「3D観光」～

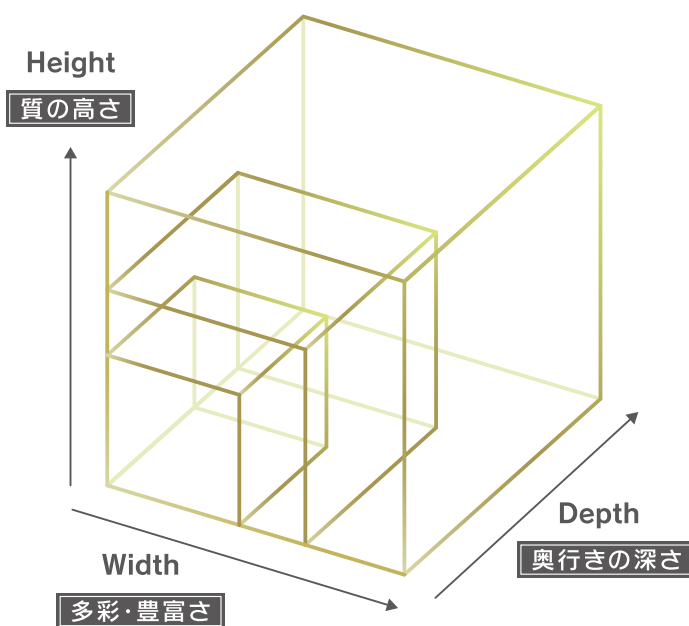
地域間競争が激化していく中、本県が国内外の多くの観光客から選ばれるためには、食、自然、伝統・文化等の各地域の強みを更に磨き上げ、本県ならではの魅力ある観光コンテンツを充実させていく必要があります。

本戦略では、地域の魅力を「質の高さ」、「奥行き」の深さ、「多彩・豊富さ」という3次元の軸から立体的に捉えることにより、ターゲットとする観光客のニーズに応じ、その強みや特性を最大限に生かしていく「3D観光※」の確立に取り組んでいきます。

趣味・嗜好に沿った四季折々の魅力等を生かした特別な体験、地域の魅力を支える人との交流等の地域とのつながりを感じるようなより深い体験など、観光客の多様なニーズに応えることができるバラエティに富んだ本県ならではの観光コンテンツ開発を推進していきます。

※3D観光(Three Dimensional Tourism):本県では、鉄道、フェリー、航空など陸・海・空の交通網を組み合わせた旅行形態である「立体観光」を提唱し、これを「青函周遊観光」という実際の旅の形として確立させました。

「3D観光」は、地域の魅力を「Height(高さ)」、「Depth(深さ)」、「Width(幅)」の3次元の軸で立体的に捉え、観光客の多様なニーズに応じていくものであり、これまでの交通網の組み合わせによる旅行形態の定着とともに、もう一つの立体観光として、更なる観光コンテンツの開発・磨き上げに取り組むものです。



3 数値目標等

(1) 数値目標

将来ビジョンの実現に向けた5年間の活動指標として、次のとおり数値目標を設定します。

延べ宿泊者数※については、「未来へのあおもり観光戦略セカンドステージ」で未達であった「550万人泊」を、外国人延べ宿泊者数※については、2017年の概ね倍増となる「50万人泊」をめざします。

また、満足度※については、全ての観光客に満足いただいている状態の「100%」を、観光消費額※については、「未来へのあおもり観光戦略セカンドステージ」の目標値の概ね10%増となる「2,000億円」をめざします。

項目	現行戦略※	2017年	2023年
延べ宿泊者数	550万人泊	462万人泊	550万人泊
外国人延べ宿泊者数	20万人泊	26万人泊	50万人泊
満足度	100%	99.5%	100%
観光消費額	1,800億円	1,863億円	2,000億円

※延べ宿泊者数:「宿泊旅行統計調査(観光庁)」の全宿泊施設に係る数値。

※外国人延べ宿泊者数:「宿泊旅行統計調査(観光庁)」の全宿泊施設に係る数値。ただし、「未来へのあおもり観光戦略セカンドステージ」の目標値(20万人泊)は、従業員数10人以上の宿泊施設に係る数値。

※満足度:「青森県観光入込客統計調査」における「満足」及び「やや満足」の構成比率の合計値(2017年「満足81.4%」、「やや満足18.1%」)。

※観光消費額:「青森県観光入込客統計調査」による。

※現行戦略:「未来へのあおもり観光戦略セカンドステージ」を指します。

(2) 観測指標

滞在の質の向上等が図られているか、また、観光への県民の関わりを確認するため、数値目標に加え、次のとおり観測指標を掲げます。

再来訪意向	本県を訪れた観光客の「再び本県を訪れたいと思うか」ということについての意向を観測します。
推奨意向	本県を訪れた観光客の「友人・知人等に本県への観光を勧めたいと思うか」ということについての意向を観測します。
観光の推奨意欲	県民の「本県への観光を第三者に勧めたいと思うか」ということについての意欲を確認します。
観光への参画意欲	県民の「観光客が訪れたいと思うような地域の魅力づくりに参画したいと思うか」ということについての意欲を確認します。